

## 臨床セミナー申込について

- 定員数：80名(先着順)
- 対象者：臨床心理士・公認心理師・医師などの専門家、大学院生、研修生 事例に関する情報の守秘を原種できる方
- 受講料：5万円(大学院生、研修生は4万円)

### ■ 申込み方法

下記URLから申し込みフォームにて必要事項をご記入ください。

<https://forms.gle/mUPMd8QufSCEWZso9>

※申し込み内容を確認の上、改めてお振込み先と参加費をご案内いたします。  
rinsemi.sapochil@gmail.comからのメールを受信できるようにしておいてください。



### ■ 第4回オープンセミナーのみ申し込み

下記URLから申し込みフォームにて必要事項をご記入ください。

<https://forms.gle/DyqtVyn8nJWWjbe49>

参加申し込み後、申し込み受付メールをお送りいたします。  
参加費はセミナー当日現金でお支払いください。  
(オンラインの場合はお振込みとなります)



### ■ 基礎の基礎セミナー申し込み

申し込みサイトの「基礎の基礎セミナー希望」の欄にチェックしてください。  
後日、受講の可否についてご連絡いたします。参加費は第1回時にご持参いただきます。

※参加費を、臨床セミナー費と同時に振り込まないでください。

**申込締切：2021年10月31日(日)** ※先着順なのでお早めにお申込みください

## サポチル会員 募集中！

現在(2021年5月末)、ボランティア会員15名、専門会員168名が、本NPOの研修プログラムへの参加をはじめ、研修会の企画運営、広報事業などに携わっています。本NPOの活動への積極的なご参加をお待ちしています。申込方法は、Webサイト[<http://sacp.jp>]をご覧ください。

また寄付により、子どもの心理療法の料金を支援していただく賛助会員を募集中です。2021年5月末現在で寄付者293名の方にご支援をいただいています。寄付はWebサイトからのクレジットカード決済、もしくは郵便振替(一口5千円より)によって可能です。

- Webサイト[<http://sacp.jp>][サポートのお願い]のページをご覧ください。
- 郵便振替【口座番号:00990-0-192194 NPO法人子どもの心理療法支援会寄付金】

多くの方のご寄付により、経済的理由で心理療法を受けられないお子さんに心理療法を提供することが可能となっております。ご支援、ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



認定NPO法人 子どもの心理療法支援会 事務局  
e-mail: [info@sacp.jp](mailto:info@sacp.jp) URL: <http://sacp.jp>  
〒604-8187 京都市中京区東洞院通御池下ル笹屋町444初音館302  
FAX: 075-600-3238

### 2021-2022年 京都精神分析・臨床セミナー 運営スタッフ

臨床セミナー 林 秀樹 (基礎の基礎セミナー)  
運営スタッフ 辻内 咲子 堀内 瞳  
村田 リカ 横田 侑佳  
松崎 佑亮

理事 吉岡 彩子  
井上 祐 (臨床セミナー担当)  
竹田 駿介 (臨床セミナー担当)  
竹林 奈奈 久永 航平  
脇谷 順子 河邊 眞千子  
小笠原 貴文 西村理晃  
藤森 旭人

理事長 平井 正三  
副理事長 津田 真知子  
顧問 鶴飼 奈津子 飛谷 渉  
監事 鈴木 誠



サポチル 認定NPO法人 子どもの心理療法支援会 主催

2021-2022年

# 京都精神分析・臨床セミナー

### ごあいさつ

当会は、子どもの精神分析的な心理療法実践の普及を目指す非営利団体です。虐待を受けた子どもや発達障害を持つ子どもへの心理療法や親へのコンサルテーションなどの実践を支援するとともに、心の専門家に対して精神分析の知識と技量の研修活動を行ってきています。京都精神分析・臨床セミナーはこうした研修活動の柱として実施してきました。今年度は、従来からの核家族化やIT・ネット社会の急速な発展に加え、「新しい生活様式」も広まり、現代人の家族やその心に大きな変化が訪れています。精神分析的な実践はコンサルテーション・ルーム内部にとどまらず、その子どもと関わる家族や大人と一緒に理解を積み上げていくという視点も重要です。そんな中だからこそ、今一度精神分析的におけるこれまでの理解を振り返り、この変化について注目し考える機会となればと思います。

認定NPO法人子どもの心理療法支援会 理事長 平井正三

### 今年度のテーマは、「子どもを取り巻く環境—その精神分析的な理解—」

- 第1回 2021年12月5日(日) 平井 正三 先生 「子どもにとっての環境とは」
- 第2回 2022年2月13日(日) 飛谷 渉 先生 「子ども・家族・コミュニティポスト・コロナ時代の思春期」
- 第3回 2022年3月13日(日) 生地 新 先生 「心の育ちを支援する環境—虐待を受けた子どもと発達障害を持つ子どもへの支援を中心に—」
- 第4回 2022年4月24日(日) 北川 恵 先生 「アタッチメントとSensitivity」  
この回のみ13～18時 ガヴィニオ重利子 先生 「子育て支援としてのMentalization Based Treatment for Children (MBT-C)」  
※オープンセミナーとして第4回のみ受講も可能です。
- 第5回 2022年5月29日(日) 木部 則雄 先生 「こどもを廻る環境—特に家庭崩壊に関して—」
- 第6回 2022年7月24日(日) 岩倉 拓 先生 「コミュニティへの介入の精神分析的な理解」

### 臨床セミナー開催日の午前中(10:30~12:00)に「基礎の基礎セミナー」を開講します

- 第1回 平井 正三 先生 「導入：精神分析とは何か？」
- 第2回 飛谷 渉 先生 「青年・成人の精神分析臨床：基礎の基礎」
- 第3回 鶴飼 奈津子 先生 「子どもの精神分析臨床：基礎の基礎」
- 第4回 津田 真知子 先生 「心理療法を精神分析的に行うことの諸問題」
- 第5回 平井正三 先生 「タビストック方式乳児観察：ビデオと解説」
- 第6回 平井 正三 先生 「終結：ふり返りと研修プログラムの説明など」

### 参加費

臨床セミナー(全6回受講) …5万円(※振り込み)

大学院生、研修生の方は4万円でご受講いただけます。  
第4回オープンセミナーのみ単回受講可(先着順)  
参加費8千円~1万円(※直接手渡し)

基礎の基礎セミナー(全6回受講) …1万円(※現地のみでの開催、参加費は直接手渡し)

※詳しい申込み方法は最後のページをご覧ください。

### 時間

各回 13:00-17:30

●前半2時間【講義】 ●後半2時間半【事例検討】  
第4回はオープンセミナー。この回のみ13時~18時です。

### 会場

第1回…TKPガーデンシティ京都 第3回・第4回…ハートピア京都  
第2回…ハートンホテル京都 第5回・第6回…未定(京都近郊の会場を予定しております)

\*オンラインでの参加も可能です。現地参加・オンライン参加の別を申し込みフォームにてご回答ください。研修ポイント申請にあたって、令和3年度中はオンライン参加でも出席扱いとさせていただきます。令和4年度については年度末以降、認定協会の方針が提示され次第、アナウンスいたします。  
\*新型コロナウイルス感染症COVID-19の影響を鑑みて、オンラインでの開催となる場合がございます。

TKPガーデンシティ 京都



京都駅より徒歩約2分

ハートンホテル京都



烏丸御池駅より徒歩約2分

<b>2021-2022年 京都精神分析・臨床セミナー スケジュール</b>	★講師が挙げている参考文献は講義内容を補うものです。
--	----------------------------

<b>第1回</b> 2021年12月5日(日)	<b>子どもにとっての環境とは</b>	<b>平井 正三</b> 先生
<p>子どもの精神分析において、子どもの内的世界を重視するクラインと環境を重視するアナ・フロイトという対立図式がよく引き合いに出されてきたが、現代の英国の精神分析ではそのような対立図式はもはや見られず、クライン派においても親子関係や養育環境、文化的背景、心理療法が行われる社会的文脈や連携が重視されている一方、子どもの内的対象関係の理解が学派を超えて必須になっている。本講義では、こうした現代的理解を批判的に検討していきたい。</p>		
<b>参考文献</b>	<p>ミュージック『子どものこころの発達を支えるもの』誠信書房 平井正三『意識性の臨床科学としての精神分析』金剛出版</p>	
<b>ご所属</b>	<p>御池心理療法センター／サポチル</p>	

<b>第2回</b> 2022年2月13日(日)	<b>子ども・家族・コミュニティーポスト・コロナ時代の思春期</b>	<b>飛谷 渉</b> 先生
<p>フロイトが発見したエディプス・コンプレックスは、人の心の核であり「心の生命」の源である。エディプス状況は、両親との様々な関係の中で変奏されつつ体験され、自分自身の心が生きているという実感をもたらす舞台となる。思春期の若者はこれまで、自分が誰で、どのように生きるべきか、いわばアイデンティティ問題に直面し苦闘する人たちだった。ところが、最近そのメンタリティは急速に変わった。ASやADHDなどの発達障害問題を抱えた若者たちが激増した背景に見えてくるのは、「自分は本当に生きているのか」という実存の不確かさである。彼らは自分自身の心がバーチャル化し、生きていないと感じている。こうした状況はコロナ・パンデミックにより余儀なくされたテレ・コミュニケーションの強化によりさらに先鋭化されている。本講では現代の家族におけるエディプス状況の変化とそれがパーソナリティ発達に与える影響について考えてみたい。</p>		
<b>参考文献</b>	<p>メルツァー,D.「こどものこころの環境」木部則雄監訳,金剛出版 飛谷渉「新しい思春期モデルーポスト・クライン派によるデジタル・ネイティブ時代の臨床思考」:「子どもの精神分析的セラピストになること」第2章所収,金剛出版 飛谷渉「エディプス・マターズー現代クライン派臨床理論から考える心のインフラ」:岩波書店「思想」8月号「特集フロイト・ルネッサンス」</p>	
<b>ご所属</b>	<p>大阪教育大学保健センター</p>	

<b>第3回</b> 2022年3月13日(日)	<b>心の育ちを支援する環境ー虐待を受けた子どもと発達障害を持つ子どもへの支援を中心にー</b>	<b>生地 新</b> 先生
<p>子どもの心の問題についての関心が高まり、児童精神科医療機関にも診断や医学的治療などを求めて、対応が困難なほど多くの子ども達が受診しています。しかし、現代の精神科医療においては、操作的で記述的な診断システムによる診断が主流です。発達障害と診断されると、先天的で中枢神経系の機能の異常に基づくと思われる「発達特性」に焦点が当たります。養育環境の問題があったとしても、愛着の障害や外傷体験の影響を中心とした理解にとどまる傾向があります。こうした子ども達への支援にあたっては、子どもの心の問題の背景にある情緒発達上の問題や家族環境の問題、グローバル化やIT化の影響など心理社会的要因について思い巡らすことが大切です。そして、そのために、プレイや描画、家族面接などを通じたアセスメントが必要になります。そして、子どもの心の育ちにかかわる専門家との連携も重要です。第3回は、力動的児童精神医学の立場から、虐待を受けた子どもやいわゆる「発達障害」を持つ子どもの心の育ちの支援を中心に考えたいと思います。そして、子どもの心の育ちの支援において、精神分析的視点がどのように役立つのかを、自分の経験に基づいて、お話ししたいと思います。</p>		
<b>参考文献</b>	<p>生地新(2017) 児童福祉施設の心理ケアー力動精神医学からみた子どもの心ー 岩崎学術出版,東京. 子どもの心理療法支援会(サポチル)(2018) 児童養護施設の子どもの精神分析的心理療法 誠信書房,東京. 生地新(2019) 児童福祉施設における心理ケアと精神科コンサルテーション 児童青年精神医学とその近接領域, 60, 3, 315-322. 子どもの心理療法支援会(サポチル)(2021) 子どもと青年の精神分析的心理療法のアセスメント 誠信書房,東京.</p>	
<b>ご所属</b>	<p>北里大学大学院医療系研究科発達精神医学教授</p>	

<b>第4回</b> 2022年4月24日(日)	<b>オープンセミナー</b>	※この回のみ13時～18時です ※ <b>オープンセミナーとして第4回のみ受講も可能です。</b>
<b>アタッチメントとSensitivity</b>	<b>北川 恵</b> 先生	
<p>子どもが養育者との間で安全・安心を得て、安定したアタッチメントを形成するためには、養育者が子どものシグナルに早く適切に応答するSensitivityが重要といわれている。アタッチメントやSensitivityについての研究知見は、欧米でのデータに基づくものが中心であり、非西欧でのデータを得ることが、アタッチメントの普遍性や文化に応じた特徴を知るうえで有用となる。また、長引く新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、親にとっても不安が高まる状況は、親のSensitivityや子どものアタッチメントにも影響を及ぼしていると考えられる。これらを踏まえて、日本での親子関係支援について、アタッチメントの観点から検討したい。</p>		
<b>参考文献</b>	<p>Ainsworth, M., Blehar, M., Waters, E., &amp; Wall, S. (1978/2015). Patterns of Attachment: a psychological study of the strange situation. New York: Psychology Press. Kitagawa, M., Iwamoto, S., Umemura, T., Kudo, S., Kazui, M., Matsuura, H., &amp; Mesman, J. (2021). Attachment-based intervention improves Japanese parent-child relationship quality: A pilot study. Current Psychology. https://doi.org/10.1007/s12144-020-01297-9. Mesman, J. (2018) Video observations of sensitive caregiving “off the beaten track”: introduction to the special issue, Attachment &amp; Human Development, DOI: 10.1080/14616734.2018.1454052 Mesman, J. (2018) Video observations of sensitivity in context: integrating insights from seven cultural communities, Attachment &amp; Human Development, DOI: 10.1080/14616734.2018.1454061</p>	
<b>ご所属</b>	<p>甲南大学</p>	

<b>子育て支援としてのMentalization Based Treatment for Children (MBT-C)</b>	<b>ガヴィニオ重利子</b> 先生
<p>子どもは自身のこころをどのようにして知り、育んでいくことが出来るのでしょうか。MBT-Cでは、情緒調整、注意制御、明示的メンタライジングという3つの構成要素を踏まえながら、子どもだけでなく養育者（親）とも面接を重ねていきます。それはMBT-Cが親子コミュニケーションの中に子どものこころの成長や回復を可能にする要素を見出しており、中でも親が子どものこころについて考えられるようになる力に注目しているからです。子どもの発達障害特性、親の抱えるトラウマや精神疾患、貧困などの家庭環境によっても互いのこころは見えにくくなり、それについて考えたり育んでいったりするコミュニケーションも阻害されやすくなります。講義では、このような事態のメカニズムを振り返るとともに、具体的な関わりを紹介しながら「こころを育む親支援」について、参加者と一緒に考えていきたいと思います。</p>	
<b>参考文献</b>	<p>Midgley, N., Ensink, K., Lidqvist, K., Malberg, N., Muller, N. (2017). Mentalization-Based Treatment for Children, A time-limited approach, Washington, American Psychological Association Cooper, A., Redfern, S. (2016). Reflective Parenting, A guide to understanding what's going on in your child’s mind, New York, Routlede</p>
<b>ご所属</b>	<p>Child-Parent Counselling, University College London Psychoanalysis Unit</p>

<b>第5回</b> 2022年5月29日(日)	<b>こどもを廻る環境ー特に家庭崩壊に関してー</b>	<b>木部則雄</b> 先生
<p>昨今のこどもを廻る環境の変化は著しく、こどもたちは内的世界への関心より外的な出来事に翻弄されている。たとえば、IT技術の進歩に伴う、SNSなどのネットツールは多くの若者たちの対人関係での変化をもたらしている。また、昨今の離婚率は目まぐるしく増加の一途にあり、この離婚に至るプロセス、離婚後の面会交渉権などの争いに巻き込まれることが多い。こどもたちはこの渦中にあっても、生き抜かなければならない。しかし、時に精神的な破綻をきたし、こうしたこどもたちは私たちの眼前に現れる。この講義では、こどもを廻る環境の変化を総括しながら、離婚に巻き込まれる子どもたちの苦悩を症例を通して論じる。</p>		
<b>参考文献</b>	<p>『こどもの精神分析Ⅱ』(岩崎学術出版社) 『こころの発達と精神分析』(金剛出版社)</p>	
<b>ご所属</b>	<p>こども・思春期メンタルクリニック／白百合女子大学 発達心理学科</p>	

<b>第6回</b> 2022年7月24日(日)	<b>コミュニティへの介入の精神分析的理解</b>	<b>岩倉 拓</b> 先生
<p>心理臨床の現場において、スクールカウンセラーや被災地臨床などコミュニティへの介入は重要な領域であり、そこでは待っているだけではない能動的な実践が求められる。現場で、どのように臨床を立ち上げ、働きかけ、定着していくかの具体的な方法と、その精神分析的な理解について考える。「連携」や「協働」をどのように考えるかも精神分析的臨床家にとっての大きな課題であり、共にこころを考える体勢を作っていくことが鍵となる。そして実は個人精神療法が周囲や社会との関係の中に位置づけられるものであることも見えてくるだろう。</p>		
<b>参考文献</b>	<p>「事例で学ぶアセスメントとマネジメントーこころを考える臨床実践ー」岩崎学術出版社 2014 「トラウマの精神分析」金剛出版 2021</p>	
<b>ご所属</b>	<p>あざみ野心理オフィス</p>	

<b>■研修ポイントについて</b>
<p>本セミナーは、日本臨床心理士資格認定協会の「定型例研修会(4ポイント)」として承認されています。5回以上出席の方に「研修証明書」をお渡しいたします。ご希望の方は、振込用紙の通信欄に「研修証明書:要」とお書きください。</p>